

□には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名

グループホーム 笠岡市炉端の家

日付

平成18年3月31日

特定非営利活動法人

ライフサポート

評価機関名

評価調査員

在宅介護経験14年

評価調査員

在宅介護経験9年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	「お年寄りの面倒を見てあげているというだけでなく、“今、を大切に”利用者も職員も一緒に生きて生活している」「お年寄り自分達との共通点を見つけ、一諸に楽しもう」・・・こう願う管理者・職員がいて、私達家族の立場から見て、理想的なグループホームと言っても良い。 昨年、ホーム内部の改修をきっかけに利用者・職員全員での2泊旅行を実現させたように、老いて認知症になっても家族を巻き込んでの思い出作りが取り組まれている。 「バリデーション研修」を履修した若い男性職員のケア振りを見ながら、「どうやって状況に応じての声かけが出来るのか舌を巻く。真似ようとしても中々出来ない・・・」と嬉しそうに管理者が部下を尊敬しているのも良い。 日頃の生活に加えて、ターミナルケアまで正面から向き合う中でこの仕事のあべき姿をホーム全体で模索している。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	多くのホームを視察してきて「ここが10年前に作られたホームが」と改めて感じる。それだけの歴史を経ながら古さが無く、ケアを含めてハードも鮮度が高い。居室毎に設置されている広いトイレ、出窓兼外へ出られるドアの設計にも感心する。また、やや狭さを感じさせた対面式台所のカウンター口を広く改修し、リビング自体を広く感じさせるようになった。 そして、平素通りがかりに見えていて、寒い冬以外は大幅玄関ドアが開放されている運営振りにには感心させられる。「出たい時には出てみようよ・・・」「どなたでもどうぞ・・・」という姿勢なのだ。 長年住み慣れた利用者が多い事もあり、「もう個々が我が家」「私の部屋へ帰りたい!」と言った言葉で話す人もいる。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

このホームは、2006年の今年5月に10周年を迎える。自治体のグループホーム立ち上げの先駆として、全国的にモデル的役割を果たしてきた。その区切りの時期にあたり、記念式や利用者・家族・職員が一緒になっての海辺の宿への旅行が計画されている。

これだけの歴史を刻みながら昔からの利用者の多く、出入りが少ない事や表情の穏やかさにも介護力の良さが表れている。基本をしっかり押えて、ゆったりと利用者に寄り添うケアが日常化している。また、職員自信が研修の大切さを体験としてよく自覚している事も立派。

昨年、このホームの部屋を「私が帰るのはこの部屋よ・・・」と口癖のように言っていた利用者が胃癌を発病した。入院して手術を行ったが、その入院中は職員が勤務のやりくりをして病院に付き添っている。退院してホームでの療養の後、小康を得た時期を見計らって弟さんの住む鎌倉まで職員が随行訪問したり、ご主人の墓参などにも連れて行ってあげている。そして、ターミナルケアは勿論このホームの「私の部屋」での看取りであった。家族もその取り組みに感謝の思いを残されている。利用者の日頃の口癖や願いを汲み取りながら、その思いを叶えてあげている管理者・職員の勇気と決断力とチームワークに感服した。「あと少しの命をベッドの上で待つだけでなく、その人のしたい事を私達も一緒になって実現してゆこう・・・」という思いが、この経験を通して職員の間にも更に強くなっているという。

会議録には「今、この時を大切に・・・」という新しいスローガンが記載されている。これは利用者にとっても、又職員にとっても言える合言葉であろう。ここには、時代を切り開いてきた役割と現状に甘んじることなく、日本のグループホームケアの“あるべき姿”を新しい地点に立って開拓しようとする静かな決意を読み取る事ができる。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

管理者のこれからの夢の中にもあったが、「小さな子供達との触れ合い」と「地域のお年寄りとの交流」を是非進めて欲しい。例えば、町内会の人々と清掃隊をするだけでなく、普段着で来てお喋りや庭いじりをする等・・・が出来ればと思います。

家族との素晴らしい交流をもう一歩踏み込んで欲しいものです。家族同士の交流や、家族の認知症ケアに関する大きい意味での意識の高揚を図る取り組みなど・・・。(先進ホームへの期待を込めて・・・)

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	「その人を知る」「その人の思い、期待、希望を知る」ことを実践している。それらを通して、職員の判断が正しかったかどうかを、常に点検し反省しながら、前向きに取り組もうとしている。 その結果が、一人ひとりが最大限尊重された暮らしとなっている。管理者・職員・そして仲間の応援・家族の協力の和の力が、その人の持てる力以上のものを発揮させているのかも知れない。 ○○さんは氷川きよしの大ファン。ポスター・DVDも集めていて、皆と一緒に楽しむ。コンサートの申し込みもして今抽選待ちという。こんな夢をかなえる事も、生きる力となる。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	職員が認知症ケアに関する研修の大切さを自覚していて、お互いに切磋琢磨しあっている。管理者も自分の考えを押し付けて指導するというのではなく、職員の個性をうまく引き出している。 会議が重視されており、意見交換が活発なようで、いろいろな意見が汲み上げられる柔軟性が感じられる。それが、素晴らしいチームワークとなっているといえよう。 思いついた事柄を、気負いもなくサラッと報告されるところに敬服した。		